



平成二〇年度 北九州市障害者小規模共同作業所 監査終わる

四月二十三日(木)北九州市庁舎にて、平成二〇年度障害者小規模共同作業所の会計監査が、午後一時三〇分より八幡事業所・小倉事業所の順番で行われ、無事に終了しました。
そこで、今回は、「さわやか」の二〇年度に行った主な活動を振り返ってみようと思います。(編集部)

STS法の制定を めざして運動を していくべき

山田理事長が、北九州市福祉有償運送運営協議会運営委員に「福祉有償運送」を行う団体の代表として選出されました。
「福祉有償運送」を行う実施団体の生の声を運営協議会に届けられるようになりました。

後部座席の シートベルトの 義務化

昨年の六月の道路交通法の改正で、後部座席のシートベルト着用の義務化にもない、利用者、ボランティアさん、ドライバーさん、お知らせとお願いをしました。



諸物価等の高騰に より送迎料を 改定

昨年、七月の運営協議会の承認を経て、八月より、送迎料金の改定を行いました。

ボランティアの原点に返って 考える時期にきたのでは

第八回北九州三県合同通院送迎事業研修交流会が小倉リーセントホテルにて行われました。

第一部は、「北九州方式での福祉有償運送」についてのシンポジウム、第二部は、「福祉有償運送について」とん話そうや」と題し、九州三県の各事業所より、活発な意見がでて、ボランティアの原点に返って考える時期に来たのでは、という意見が多く出されていきました。



改定前は、送迎料は一回につき三〇〇円でしたが、改定後の送迎料金は、利用会員宅又は病院(乗車地点)を起点として、目的地(降車地点)を終点として、走行1.5kmまで三〇〇円、1.6kmより5kmまで五〇〇円、以後1kmごとに一〇〇円増となり、利用者の方々にも理解していただきました。

送迎事業の ノウハウを アドバイス

透析患者の高齢化が進み、通院困難者が増えている現在の送迎事業所を立ち上げるためのノウハウ等を議論しようという目的で、全腎協主催の通院介護支援事業研修会が行われ、パネリストの一員として、山田理事長が参加し、経験から得た知識や、厳しい意見を述べ、活発な討論会が行われました。

「福祉有償運送」を もっと多くの方に 知ってほしい

北橋市長と気軽にランチタイムと題して、「福祉有償運送について」北九州庁舎にて話をしました。

市民の方々に「福祉有償運送」をもっと知っていただきたいとの思いで、「さわやか」より七名が参加しました。北橋市長より、北九州市としての考えや、回答が出されました。

行政を交えて 実施団体の 意見交換会

第一回北九州市福祉有償運送実施団体の意見交換会がウエルとばにて開催され、福祉有償運送実施団体9団体のうち6団体の代表が出席し、「さわやか」からは三名参加し、行政を交えて活発な意見交換会をしました。

「福祉有償運送」の 問題点を提起

総務省九州管区行政評価局の田原友幸主席行政相談官が八幡事業所に来所され、「福祉有償運送について」ヒヤリングが行われ、「福祉有償運送」に対する要望

などを訴えました。

また、田原首席相談官から膨大な資料の中から疑問点を質問され、的確に山田理事長が回答しました。

移送サービスの 未来の展望を 語り合う

東京ハンディキャブ主催の『移送サービスのつどい二〇〇九』が東京にて行われ、「さわやか」より二名参加しました。

ラジオ番組に出演し、 「さわやか」のPR

FM KITAQのラジオ番組「元氣シニアの玉手箱」に山田理事長がゲスト出演し、「さわやか」の紹介と運転ボランティアの募集のPRを行いました。

昨年は、「福祉有償運送」の問題点が次第に浮き彫りになってきました。

また、運営協議会検討会の発足により、実施団体の意見交換会は大変有意義なものでした。

今年度も行政や関係団体との協働や連携を更に強め、走りながら考え、前進していきます。
皆様の更なるご協力お願い致します。

北九州を去るにあたって

「さわやか」相談役 江頭 博幸

北九州を去るにあたって、「さわやか」の歩いてきた道を、少し振り返ってみました。現在、長崎県平戸市のド田舎に、居を構え、晴耕雨読の余生を送ろうと考えています。でも、「さわやか」の設立に係わったもの一人として、今後も「さわやか」の一挙手一投足を見守って行こうと思っています。

【1】何故、北九州市腎友会に白羽の矢が立ったのか？

① 全腎協の法人化に向けて、何らかの事業をしなければ、法人化が認められない。

② 全国を眺めてみて、北九州市腎友会が一番元気が良かった。様々な要求闘争をして、成果を上げていた。福岡県で、最初に、タクシー初乗り料金の助成を勝ち取った。これが、県下に広まった。

◆ バス停にシャトルをつける。時刻表の改定もさせる。

◆ 市営バスの停留所を、八幡西郵便局内に作る。王子病院

◆ 障害者の働く場所の要求。「さわやか」、やすらぎ、いきいき

◆ 通院送迎の要求。シルバーひまわりサービス、「さ



江頭氏の新たな旅立ちの会での記念写真

【2】「電話番号でいいから」で始まる

「電話番号でいいから」ということから、「さわやか」

◆ 緊急時対策を要望（阪神淡路大震災時）―多くのマスコミが取材

◆ 所得制限反対運動―戸町議員参加、市、該当者へ説得活動

◆ ドナー・カード配布。二〇〇万枚

◆ 腎移植推進で、救急病院を回る

【3】確固とした方針が必要

が必要

「さわやか」は十三年間、若干のつまづきはあったものの、ほぼ順調に推移してきました。

組織は、正しい方針に基づいて運動しないと、方針が誤っていけば、運動の前進はありません。いや、組織の存亡が問われるかもしれないのです。

では、「さわやか」では、どのような、方針で運動し

てきたかを見てみましょう。①「走りながら考える」を運動の中心に据えました。

まず、行動をする、その中で矛盾がでてくれば、その時点で、修正して、前進するという方針です。

困難には、怯まず向かって行き、その困難を克服する。攻撃は最大の防御です。「さわやか」は、絶えず、前進してきました。

たぶん、防御になったら、弱いかも知れません。

②情勢を読む

世界情勢、国内情勢を正しく把握し、その時代の奔流の中に入り、運動をしていかなないと、本流からそれて支流や、逆流にそって運動をしたら、必ずや、その運動は、軌道に乗らないでしょう。情勢が読めないということは、目が見えないのと同じです。後ろに虎が来ていても、気付かないのと同じです。

アメリカのオバマ大統領は、プラハで、核兵器廃絶の誓いをしました。新しい情勢の変化です。もう、核の傘の下でという政府の方針は通用しなくなりつつあります。We can change! (オバマ) 情勢が変わったのです。

③ボランティアとは

通院送迎運動も、変化の兆しが出てきています。

その変化に乗り遅れないよう、再度、ボランティアという意味が、色々な意味に解釈され、本来のボランティアとはかけ離れたボランティアが、はびこってきているようです。ボランティアという意味をしっかりと掴まないと、奉仕とか有償ボランティアがまかり通ります。

④理事会・常任理事会、などの会議の重視

会議が重要なことは、当然なことですが、会議とは、会して議論すると書きます。さらに、議して、決する、決して行う、これが会議です。会議は踊るでは何の意味もありません。話し合うだけでは駄目です。

必ず、行動が伴わなければ、会議ではないのです。どのような良い、理論でも、実践が伴わなければ、何の意味もないのです。

会議で、充分議論して、結論が出たら、行動で示しましょう。

理事会、常任理事会など、会議の持っている役割は重要です。

